

この指針は、本市のユニバーサルデザインのまちづくりを進めるため、策定しました

計画期間：8年間（令和8年度～令和15年度）

郡山市UDキャラクター
「こころころ」



ユニバーサルデザイン（UD）とは

子ども、お年寄り、体の不自由な人、外国人など、できるだけ多くの人が利用しやすく、暮らしやすいまちをつくることです

郡山市UDキッズ



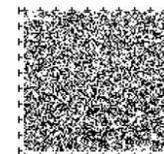
みんなが使いやすいポイントはどこだろう？

➤ なぜ、UDの指針が必要？

- 高齢化の進行、デジタルの進展
- 多様性の広がり（外国人住民の増加、性的少数者への理解の高まりなど）

多様な人々に配慮したまちづくり が必要です

※この冊子には、2ページごとに音声コードが印刷されています。スマートフォン専用アプリ等を使うと、紙面の情報を音声で聞くことができます。



基本方針 1 ハート

ユニバーサルデザインを実践できるひとづくり

ユニバーサルデザインの考え方や、あらゆる当事者への正しい理解を広め、誰もが当事者意識をもって対応できるひとづくりに取り組みます。

基本方針 2 ハード

未来に続く安全・安心な施設整備

誰もが自らの意志で自由かつ円滑に、安全・安心に移動し、施設等を活用するための整備を進めます。

基本方針 3 ソフト

誰にでもやさしい情報・サービス

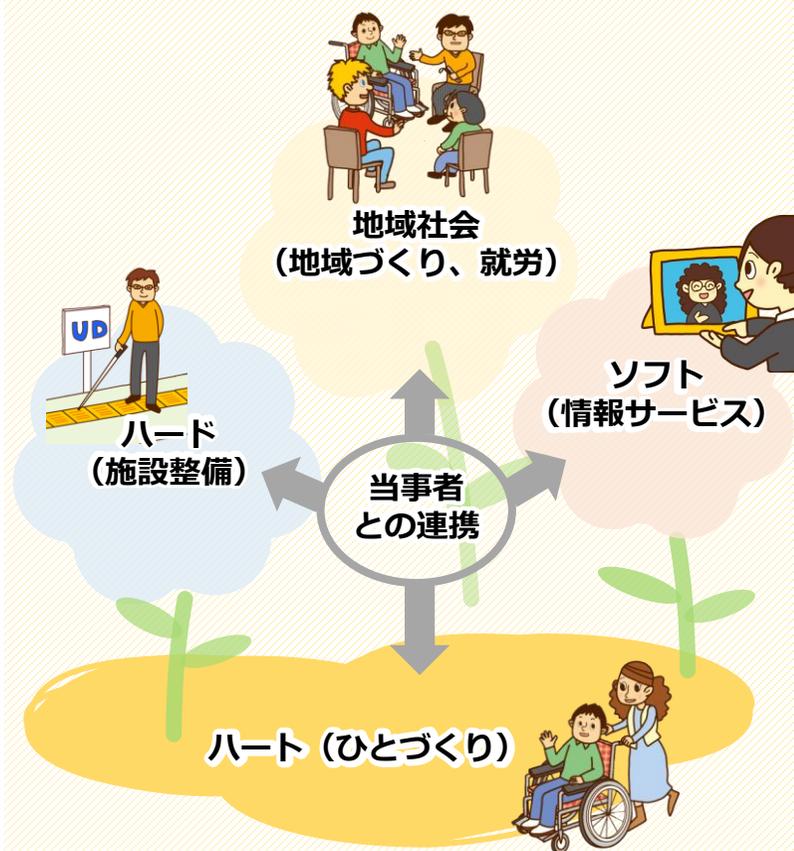
誰もがいつでもどこでも分かりやすい情報にアクセスできるよう、情報発信を強化し、サービスを楽しむ取組を進めます。

基本方針 4 社会参加

誰もが社会に参加できる仕組みづくり

普段からの地域とのつながりの形成や、誰もがまちづくりに参加できる仕組みづくりを市民協働を進めます。

基本方針に基づく ユニバーサルデザインのまち



あるべき将来像（基本目標）

誰もが社会で活躍できるユニバーサルデザインのまち

推進指針の体系と指標の設定

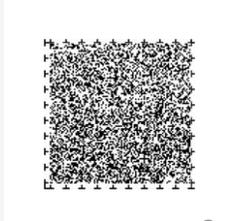
基本方針	基本施策
1 ハート ユニバーサルデザインを實踐できるひとづくり	1 やさしさがあふれるひとづくり 2 多様性や人権を尊重し、自ら實踐できるひとづくり
2 ハード 未来に続く安全・安心な施設整備	3 誰もが利用しやすく安全・安心な交通・移動環境 4 誰もが利用しやすく安全・安心な施設
3 ソフト 誰にでもやさしい情報・サービス	5 いつでもどこでも誰にでも分かりやすい情報発信 6 利用者の立場に立ったサービスとおもてなし
4 社会参加 誰もが社会に参加できる仕組みづくり	7 市民協働によるユニバーサル社会の推進 8 安全・安心なユニバーサル社会の推進

当事者（支援者）との連携による推進

△横断的ポイント△

指針の成果の見える化を図るため、数値で分かる**指標**を設定

全体指標	現況値	目標値（令和15年度）
① UDの視点から実施した改善件数	51件（令和7年度）	50件
② 多様な価値観・意見	最新の現況値及び推移を確認	



ハート ユニバーサルデザインを実践できるひとづくり

基本施策1 やさしさがあふれるひとづくり

- イベントやSNSを活用した普及・啓発
- 学校教育や社会教育での普及・啓発
- 市職員への研修



基本施策2 多様性や人権を尊重し、 自ら実践できるひとづくり

- 多様性への正しい理解
- 人権の大切さへの意識醸成
- 当事者との交流機会の創出
- 配慮が必要な方に関するマークの普及・啓発
- UDの実践のための研修



ハード 未来に続く安全・安心な施設整備

基本施策3 誰もが利用しやすく 安全・安心な交通・移動環境

- 道路や移動環境のUD化
- 利用しやすい公共交通機関、移動手段の支援
- 分かりやすい案内表示
- 関係機関と連携した交通安全・防犯対策



基本施策4 誰もが利用しやすく 安全・安心な施設

- 公共施設等のUD化
- 分かりやすく、導線を考慮した案内表示・案内手段
- バリアフリートイレの整備
- 民間施設のUD化



基本施策5 いつでもどこでも誰にでも 分かりやすい情報発信

- 誰もが見やすい文字や配色による情報発信
- 多様な媒体による情報伝達
- 相手に応じた多様な情報伝達
- ICT活用などの支援
- ピクトグラムの活用促進



基本施策6 利用者の立場に立った サービスとおもてなし

- 市民の視点に立った窓口サービス
- ICTを活用したサービス
- 手話通訳者・要約筆記奉仕員の活用
- UD製品の調達・利用の促進



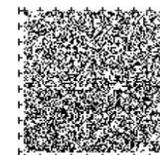
基本施策7 市民協働によるユニバーサル社会の推進

- 誰もがまちづくりに参加できる機会の創出
- 誰もが就労しやすい支援
- 市の事業への参画機会の充実
- UDサポーターとの協働
- UDの普及や取組への支援及び連携
- UDに配慮した施設等、導入事例の共有



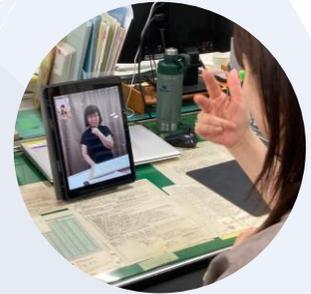
基本施策8 安全・安心なユニバーサル社会の推進

- 災害に備え、助け合える互助の意識醸成
- 移動が困難な方を避難させる仕組みづくり
- 誰もが安全かつ迅速に避難できるための整備
- 誰もが安全かつ安心に利用できる避難所運営
- 多様な媒体による分かりやすい災害情報の提供





1.ひとづくり ハート



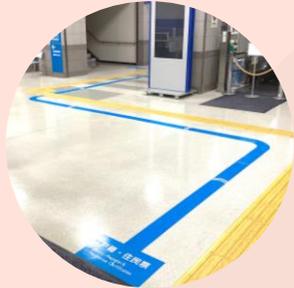
3.情報・サービス ソフト



誰もが社会で活躍できる
ユニバーサルデザインのまち
を目指します



4.仕組みづくり 社会参加



2.施設整備 ハード



配慮が必要な方の例

高齢者の特徴・配慮

疲れやすく、転びやすくなる
高い音が聞こえにくい
視界がかすむ、視野が狭い
指先の動きが鈍い
⇒ 個人差が大きいので、相手に合った対応を
⇒ 相手のペースに合わせてながら、敬意をもって温かい対応を心がけましょう



視覚障がい者の特徴・配慮

全盲の方、弱視の方がいる
見える範囲が狭い方もいる
現在位置や方角が分からず、移動するのが大変
⇒ 話しかけるときは、必ず名乗ってから
⇒ 誘導するときは、肩や肘を掴んでもらい、半歩前を歩きましょう



車いす利用者の特徴・配慮

目線や手が届く範囲が低い
段差を乗り越えるのが大変
狭い通路は利用しづらい
⇒ 話しかける際は、少し屈んで同じ目線で
⇒ 段差やドアで困っている人がいたら、本人の意向を確認してから手伝いましょう
⇒ 車いすでも利用しやすいスペース確保を



色弱者の特徴・配慮

日本人男性の5%、女性の0.2%が色弱者

赤色や緑色が識別しにくい ⇒ 色だけではなく、形や太さで違いを出す
(太字にする、下線や輪郭をつけるなど)
⇒ 色弱者の見え方が分かるメガネやスマホ用アプリを使って、色づかいを確認する



妊婦の特徴・配慮

足元が見えにくく、バランスを崩しやすい
臭いに敏感になる
⇒ 身体へのいたわり、気配りを
⇒ 無理な体勢をとらないよう配慮しましょう



聴覚障がい者の特徴・配慮

失聴の方、難聴の方がいる
相手の口の形を読み取っている方もいる
⇒ 手話、筆談など、相手に合った方法を
(全員手話が分かるとは限らない)



外国出身者の特徴・配慮

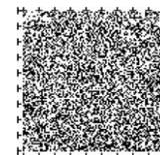
日本語能力には個人差がある
日常生活の習慣や文化が異なる
⇒ 案内などには、日本語のほか、多言語表記や絵文字の併記を
⇒ 出来るだけ簡単な日本語を使いましょう



手話マーク

筆談マーク

※音声以外に対応可能なコミュニケーション手段が、誰にでも一目で分かる「手話マーク」「筆談マーク」を活用しましょう。



配慮が必要な方へのマークの例

人が身につけるマーク

ヘルプマーク

義足や人工関節の使用、内部障がいや難病、発達障がいなど、外見から分からなくても援助や配慮を必要としている方が、周囲に配慮を必要としていることを知らせるマークです。

このマークを見かけた場合は、困っているようであれば声をかける等、思いやりのある行動をお願いします。



耳マーク

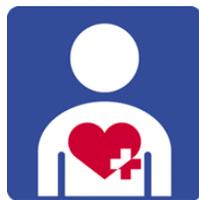
聞こえに不自由があることを表すと同時に、聞こえない人・聞こえにくい人への配慮を表すマークです。相手が「聞こえない・聞こえにくい」ことを理解し、手話や筆談など、相手に合った方法に配慮をお願いします。



ハート・プラスマーク

身体内部（心臓、呼吸機能、じん臓、膀胱・直腸、小腸、肝臓、免疫機能）に、障がいや疾患がある人を表しています。

このマークを見かけた場合には、障がい者用駐車スペースを譲ったり、近くで携帯電話を使用しないといった配慮をお願いします。



マタニティマーク

周囲に妊産婦であることを示しやすくするものです。

このマークを見かけた場合は、近くでタバコを吸わない、電車・バス内で席をゆずる、困っているようであれば声をかける等、思いやりのある行動をお願いします。



障がい者のための国際シンボルマーク

障がい者が利用できる建物、施設であることを明確に表すための世界共通のシンボルマークです。駐車場などでこのマークを見かけた場合には、障がい者の利用への配慮をお願いします。

※このマークは「すべての障がい者を対象」としたもので、車いす利用者限定しているものではありません。



盲人のための国際シンボルマーク

盲人のための世界共通のマークです。視覚障がい者の安全やバリアフリーに考慮された建物、設備、信号機や点字郵便物・書籍などに付けられています。このマークを見かけた場合には、視覚障がい者の利用への配慮をお願いします。



ほじょ犬マーク

ほじょ犬（盲導犬、介助犬、聴導犬）の啓発のためのマークです。

公共の施設や交通機関はもちろん、デパート、ホテル、レストランなどでは、同伴する補助犬を受け入れる義務があります。

補助犬を同伴していても、使用者が困っている様子を見かけたら声かけをお願いします。



思いやり駐車場マーク

思いやり駐車場は、施設等の管理者が、歩行が困難な方などに施設等を安全でスムーズな利用をしてほしいという配慮から、出入口に隣接する場所に設置しています。

必要としている方が安全に止められるよう、駐車場は適正に利用しましょう。



施設や場所にあるマーク